

令和4年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

牛山小学校

1 本校の教育目標

自らのよさに自信をもち、主体的に粘り強く課題に取り組むとともに、心身ともに健やかな児童を育成する。

2 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友達と触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々との関わりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きる良さと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、（特別支援学級 単独でも実施）

(4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきた。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特徴、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

<p>児童</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書の時間を通して集中して真剣に取り組むということができるようになった。 ・習字をやって、習字以外の字もきれいになったような気がする。名前を小筆で書く時に気を抜いてしまう時があるので今後は最後まで集中して取り組みたい。 ・書の時間を通して、きれいに丁寧に字を書くということの大切さがよく分かった。これからも丁寧な字を書きたいと思う。 ・書の先生に教わりながら、手本をよく見て筆の下ろす位置の最初と最後はどこなのか、この位置でいいのか考えながら書くことができた。6年生になったら、後ろに飾られるような字が書けるようにがんばりたい。
<p>教員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書写ルームがあることで集中して取り組みやすくなっていると思う。 ・場所が変わることや余分なものがないことが集中しやすくなっている。 ・書写ルームがあることで、子どもたちの気持ちが切り替わり、やる気を持って取り組むことができる。 ・落ち着いて書に向かうことができ、上手な字が掲示されていることではげみにもなっていると感じる。 ・書の時間があることで落ち着いた時間を週に一度過ごすことができる。 ・6年生は大きな書の体験ができ、書を楽しむことを実感できた。
<p>保護者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からある「道」がつくものを習わせたいと思っていたので、「書道」の時間があり大変ありがたいと思う。子どもも筆を使うことに慣れており、書道の授業はとても楽しい様子である。定期的な授業と先生のご指導があつての事だと思っている。 ・一年生から水習字を習うことで筆に慣れ、書道に入りやすくなっていると感じている。「書のまち、春日井」らしく書にふれる機会が多いのはとてもありがたい。書道の時間は心を整える大切な時間だと思う。 ・注意点に気を付けると上達することを書の時間に実感しているようで、とても有意義な時間を過ごしていると嬉しく思っている。

(3) 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル機器が発展してくる中で、ペンを持って字を書くことや、机の前に座り、姿勢を正しくして書くことがないが少なくなった。家で習字の練習をすることもほとんどなくなっている。字を書くことは大切な教育だと思うので、これからも続けてほしい。 ・書に1年生からなじみ、6年間学ぶのはとても良い。週1回の時間が確保されているのも良い。習字で心を整えられることは確かにあると思う。 ・書の才能はどこで開くのかかわからないので、やってみるといえるのは大切だと思う。

(4) 課題

- ・ 書道講師や教師の指導が活かせるように、水習字のお手本だけでなく、墨習字のお手本もあるとよい。
- ・ 書写ルームの汚れについて、ふだんの児童の清掃活動や長期休業中の用務員の清掃を行うことにより随分ときれいになったが、書写ルームの使い方の共通理解を図りたい。